

各様式 書き方のポイント

個別の教育支援計画

個別の指導計画

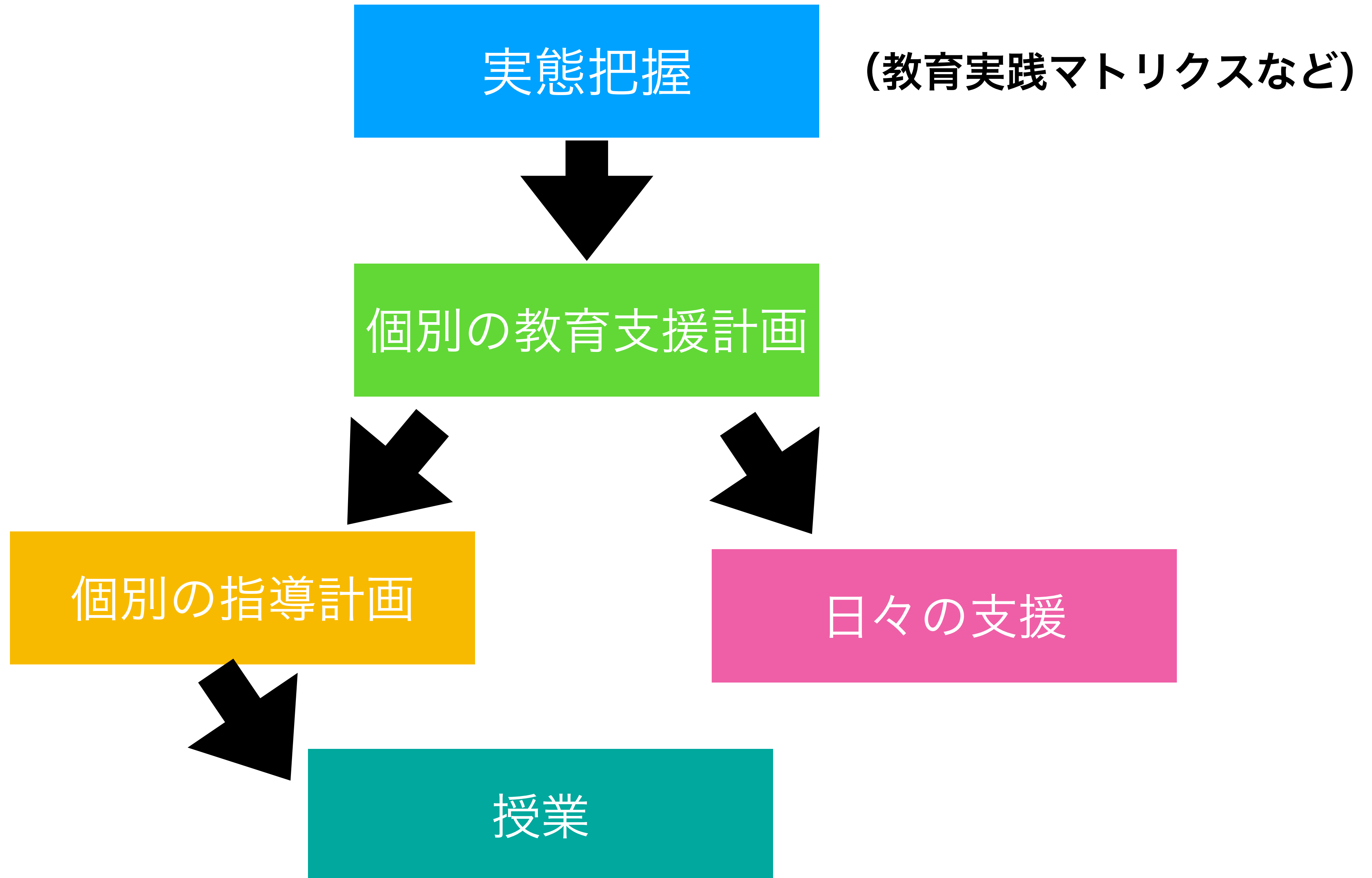


今日の予定

- 1、前回の復習（各様式のつながり）
- 2、個別の教育支援計画の書き方
- 3、個別の指導計画の書き方

前回の復習

授業までの流れ



実態把握

最も重要

子どもたちの様子をよく観察する

何を？

得意なことは？ ＊仮説

苦手なことは？ ＊仮説

どんな支援が必要？ ＊仮説

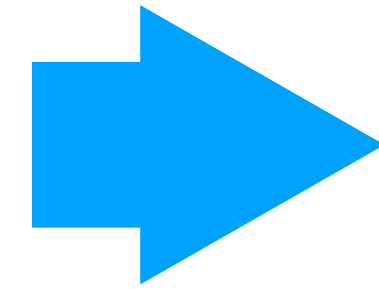
実態把握

- 保護者、関係機関（主治医、放課後等デイサービス、OT、PTなど）からの聞き取り
- 前担任からの情報
- 発達検査など（WISC-V、K-ABC II、新版K式など）の結果
- ＊大切なのは数値ではなく、分析結果（強み・弱みなど）
- 本人の行動観察
- 大切なのは、1つの情報に頼るのではなく、色々な情報を総合して考えること

何をどう考えるか。

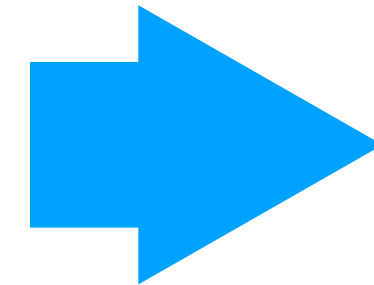
1、何に困っているか

いつ？どんな時？



どうなって欲しいか

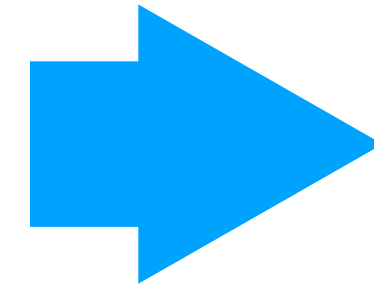
2、なぜか？



原因は

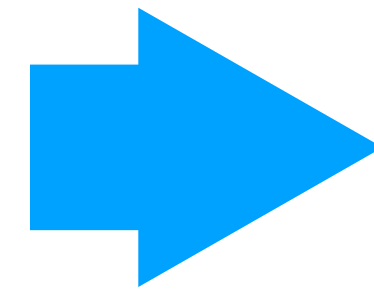
何が隠れてる？【仮説】

3、どうすれば良いか？



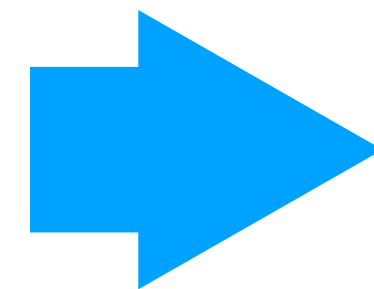
支援の方法【立案】

4、やってみよう！！



実践

5、どうだった？



日々の生活の中で確認

【評価】*継続または2に戻る

教育実践マトリクスについて



本校独自の
「実態把握」
「課題設定ツール」
「学びの記録」

小中高１２年間で
身につけてほしい力の
「地図」

16の力（横軸）×12段階（縦軸）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

学年ごとに塗る色を変えて、
変化を記録

必ずしも上のマスの目標を
狙うものではない

地図なので1丁目と2丁目に
優劣はない

横に伸びるのも、深まるのも
成長

に気をつける できる 体力づくりの 動（ランニン することがで	跳び箱、鉄棒、なわと び等）に合わせた活動 をすることができる □様々な模倣（体操、 ダンス等）をすること ができる	できる □あきらめずに最後まで がんばることができる	する □経験したものや事柄 を自分なりの表現で描 く	ルールやマナーを守っ て活動することができる □特定の教員（担任 等）がいなくてもルー ルを守って活動するこ とができる	使うこと □動植物 やさしい とがで
促して、食事 や食べ方に気 ことができる 足して、体力 のための運動 ング等）をす でける	□簡単なルールのある ゲームができる □言葉かけ等で複数の 動き（走って跳ぶ等） を連続することができる □簡単な動作の模倣が できる	□周囲の応援等で、苦 手なことも頑張って活 動することができる □苦手なことにも短時 間向き合うことができ る	□音楽に合わせて手を たたいたり、踊ったり することを楽しむ □好きなものを自分な りの表現（みたと等） で描く	□学部や学校などの ルール（廊下を走らな い等）を守ることがで きる □小集団の中で活動す ることができる	□動植 ことを □野菜 みにし
いなく食べる できる 生活リズムを	□言葉かけや合図で基 本的な運動（歩く、走 る等）をすることがで きる □教員の動きを見て、 自分で体を動かす（体 操等）ことができる	□親しい友だち（クラ スメイト等）の中で落 ち着いて活動すること ができる □複数の教員（担任以 外等）と意思疎通がで きる	□自分で音を出した り、音楽（曲）にあわ せて体を揺らしたりし て楽しむ □絵を描くことに興味 をもつ	□学級や学年などの ルール（友だちを待 つ、集団に自分を合わ せる等）を守ることが できる □友だちの中で一緒に 活動することができる	□動（成 づく □季 化す
のも自分で ができる がら食事を	□立った状態で衣服や 靴の着脱等を一人で 行う □階段や坂道の上下 りを一人でやる	□特定の教員（担任 等）と一緒に活動する ことができる □特定の教員（担任 等）と意思疎通がで きる	□好きな植物や動物が ある □好きな音楽や絵等が ある	□日常生活に必要な決 まり（手洗いをする・ 歯みがきをする等）を 守ることができる □時間（始まりの時 間、終わりの時間等） を意識することができる	□いこ □を
して、体 を涼しく ば水分摂 のも少し とができ	□衣服や靴の着脱等を 少しの支援で行う □階段や坂道の上下 りを少しの支援で行う	□好きな音楽や遊具を 使った活動を、落ちて いることができる □自分が安心できる環 境（場所）で、しっか り活動することができる	□身近な植物や動物へ の興味を深める □絵（絵本）や音楽 （音）の楽しさ、おも しろさを感じる	□特定の教員（担任 等）との簡単な約束 （～ができたなら～をし よう等）を守ることが できる	□身 物の □教 りの物
し、夜に つける て、あそ	□衣服や靴の着脱等を 教員と一緒にやる □階段や坂道の上下 りを教員と一緒にやる	□好きな音楽やお気 にの遊具がある □好きな遊びがある □落ち着ける環境 （クールダウンでき る方法）がある	□教員の働きかけで身 近な植物や動物に興味 をもつ □絵（絵本）や音（音 楽）に興味をもつ	□教員と一緒に服を 守ることができる □見通しがもてれば教 員と一緒に一定時間待 つことができる	□身 物の □教 りの物
のを中心 振ることが できる しっか活動 にしっか眠	□ものを指でつまむこ とができる（つかむ） とができる（つかむ） とができる（つかむ）	□特定の音楽に反応 （微笑み、振り向きな ど）する □特定のもの（おも ちゃやえほん）に積極 的に取り組む	□身近な植物や動物に ふれる □絵（絵本）や音楽 （音）にふれる	□気持ちが安定してい るときには、教員と一 緒に一定時間待つこと ができる □サインで待つが分か り、行動を一時とめる ことができる □着席できる	□身の回 物にふれ

個別の教育支援計画の 書き方

個別の教育支援計画

大切なのは
本人・保護者の思い

本人、保護者の願い

どんな未来をめざすか？

望む未来（3年後）から逆算する
今年どこをめざすか

そのために必要な支援は？

3年後（長期） → 1年後（短期） 目標

大阪府立西淀支援学校 <様式A-4-1>

個別の教育支援計画 目標設定

児童生徒名	大城 乃々、鬼塚 貴之、堀井 一宏	学部学年・組	中学部 1年 4組
担任	大城 乃々、鬼塚 貴之、堀井 一宏		
卒業時 3年後に つけたい力	【本人の希望・保護者の願い】 ・コミュニケーション力をつけてほしい。		
長期目標	・自分の気持ちを相手に伝えられるようになる。 ・集団行動ができるようになる。		

	1年	2年	3年
年間目標	・困っていることや、手伝ってほしいことを担任に伝えることができる。	・困った時に助けを求められることができる。 ・伝えたいことを正しく伝えることができる。 ・友だちとの適切なかわり方について知る。	
教育実践 マトリクス 該当する項目	FⅠ：支援を求める力	FⅡ：支援を求める力 DⅠ：自他の大切さを認める態度	
支援の手立て	・最初は担任が声かけを聞き取り、適切な伝え方を具体的に教え、少しずつ自分から伝えられるように促す。		
年度末の 様子と課題	・教員から声かけがあれば、困っていることなどを伝えることができた。自分から質問したり、助けを求めたりできるようになることが今後の課題である。		

各項目の主語と記入例

項目	主語	記入例
卒業時に つけたい力	児童・生徒 または保護者	色んな人と喋ることができるようになりたい（児童・生徒） コミュニケーション力をつけて欲しい（保護者）
長期目標	児童・生徒	自分の気持ちを相手に伝えられるようになる
年間目標	児童・生徒	困っていることや手伝ってほしいことを 担任に伝えることができる
支援の手立て	教員	最初は担任が思いを聞き取り、適切な伝え方を具体的に示し、 少しずつ自分から伝えられるように促す
年度末の様子と課題	児童・生徒	教員から問いかけがあれば困っていることなどを伝えることができた（様子） 自分から質問できるようになることが今後の課題である（課題）

教員の仕事

本人・保護者の願い

具体的な目標に解像度を上げる

「願い」につながる 「今」取り組むべき（取り組める）課題

「適切なコミュニケーション」

誰と？（親？先生？子ども？）

どの場面で？（いつでも？授業で？休み時間？困った時？）

どんな風に？（喋って？1語？身振り手振り？絵カード？）

今できること・できないことは？（話せる？文字は？サインは）

個別の指導計画の 書き方

授業

* 2つの柱

教科の力

- ・ 各教科の学習内容
「国語」
「数学」
「社会」
「外国語」
「音楽」
など

← 教科を教える

教科で教える →

自立活動

- ・ 得意を活かし
苦手を補いよりよ
く生きる力
「指先の器用さ」
「コミュニケーション」
「精神的な安定」
など

個別の指導計画

1年間（前期・後期）各教科で

何を

どう学ぶか

（そのために必要な支援は？）

教科で学習すべき内容：ねらい

自立活動的な課題：教材教具の工夫，活動内容の設定

支援の手立て：学ぶための支援

授業でつけて欲しい力

教科の勉強＋自立活動

数学の授業

教科の勉強
「数の学習」

自立活動
「おはじきを
うつしかえる」

教科を教える

教科で教える

具体例

「10」の大きさ

教科の力

- ・ 10 という数の理解

自立活動

- ・ 指先の器用さ


(目でみて、ねらって指で
つまむ)

ビーズを卵パックにつまんで
うつす

* ビーズの大きさを変える
お箸でつまむ
目でみてわかる

個別の指導計画

支援計画の内容
各教科の指導計画に
連携させる

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
		学部	中学部			8		9	10
	講座番号 24211102	講座名	国語			読込ボタン	保存ボタン		
		グループ	2						
		段階	小学部2段階						
	文字数	担当者	樋井 一宏			参考（教育支援計画）		指導計画のみ	指導計画・指導要録
	児童生徒 番号	学部	年	組	児童生徒名	年間目標	支援の手立て	シラバスのある教科 重点目標 ※プルダウン選択	シラバスのある教科 現れ・評価 ※自由記述 60文字
0	29019	中学部	1	4		・中学部の生活に慣れ、落ち着いて授業に参加することができる。 ・教員や友だちと言葉でのやりとりをする。	・活動内容に見通しがあるよう、流れを文字や絵を添用して具体的に伝える。活動の継続時間をタイマー等で示し、見通しがあるようにする。活動の最後に好きな活動を取り入れ、意欲を高めるようにする。 ・言葉で伝える場面を設定し、どのように伝えれば良いかを具体的に示す。	ア	ア
0									
0								見聞したことなどを簡単な言葉で話している。	体育大会の作文づくりでは、活動内容に関する質問に答えることができた。
0									
0								イ	イ
0								文字を書くことに興味をもっている。	自分の名前を漢字で書くことができた。
0									
0								ウ	ウ
0								文字などに関心をもち、読もうとしている。	動物の絵カードに書かれた文字を読み、イラストカードとマッチングすることができた。
0									
<div>< > 講座番号確認 入力 個別入力 回覧 シラバス シラバス検討資料 実務担当者用 + :</div>									

目標の観点と評価

ア：知識・技能

イ：思考・判断・表現

ウ：主体的に取り組む態度

本校はプルダウン式

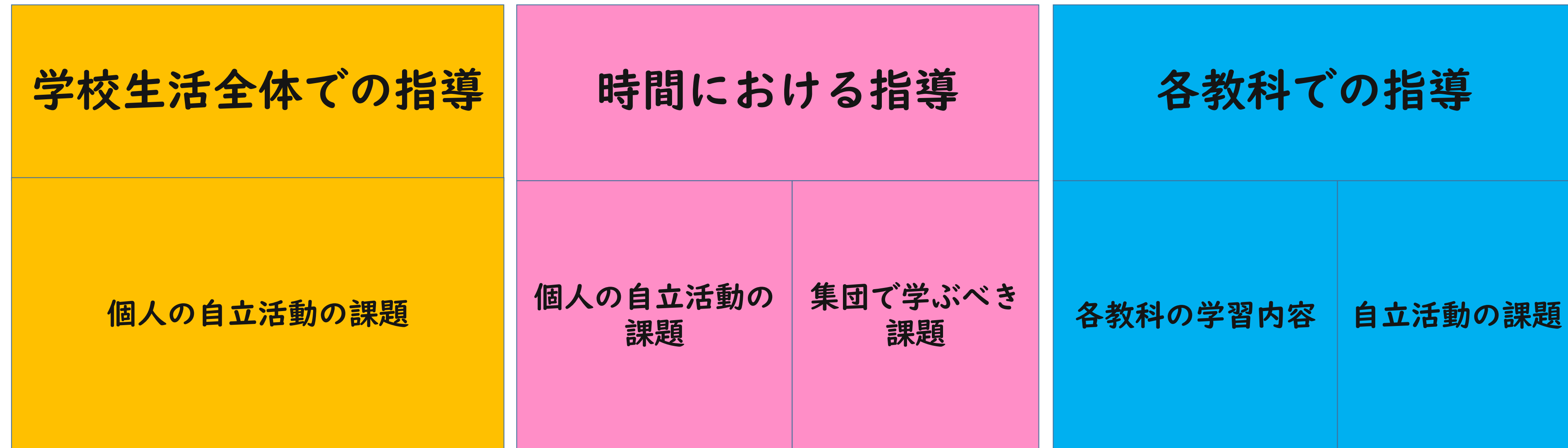
評価はそれぞれの目標に対応した記述

主語は「児童・生徒」

自立活動は・・・

西浦支援学校中学部では

3つの場面に分けることができます



			学部	中学部			8	11	12	13
			講座名	自立活動						
			グループ	5		読込ボタン	保存ボタン			
			段階					指導計画のみ	指導計画のみ	指導計画・指導要録
					参考（教育支援計画）		前期			
学部	年	組	児童生徒名	年間目標	支援の手立て	自立活動 目標 ※自由記述 200文字	自立活動 支援の手立て ※自由記述 300文字	自立活動 現れ・評価・課題 ※自由記述 300文字		
中学部	1	5	<div></div>	<div>・場面に合った言葉遣いを知る。 ・友だちとの適切な距離感を学ぶ。</div>	<div>・言葉遣いが乱れている場合は、「○○って言うのはどう？」など提案し、丁寧な言葉遣いを知ることができるようにする。 ・友だちと距離が近くなってしまった際には、「これぐらいの距離にしよう」などと具体的に提示する。</div>	<div>○朝のアクティヴィティの時間に、体を動かす習慣を身につける。 ○給食後に、食缶を返却することができる。 ●相手を意識して適切なコミュニケーションについて考えることができる。</div>	<div>○「今日は○○で活動する」と場所を伝え、ともだちや教員の言葉かけで取り組みやすい雰囲気を作る。 ○教員が「これを運んでね」と運ぶものを提示する。 ●適切な表現について考える際に具体的な表現例を示すようにする。</div>	<div>箱にウォーキングに取り組むことができた。今後は、集中して取り組む時間をより延ばしてほしい。また、体操には友だちに声をかけながら、取り組むことができた。 ○今日はどれを運ぶのか教員に確認し、確実にワゴンまで返却することができた。蓋などを重ねる場所も覚えて丁寧に返却してほしい。 ●インタビューした内容から、自分が伝えたいことを選んで、伝わりやすいようフォントサイズなどを工夫して広告作りを行うことができた。伝えられる内容を増やすことが今後の課題である。</div>		

- 学校生活全体（朝の時間、給食、クラスなど）
- 時間における指導（時間割上の「自立活動」）

個別の教育支援計画→時間における指導

【目標】 場面にあった言葉遣いを知る→相手を意識して適切なコミュニケーションについて考えることができる。

【手立て】 言葉遣いが乱れている場合は→適切な表現について考える際に具体的な表現例を…
「○○って言うのはどう？」…

ありがとうございました

書いてみないと
難しいですね・・・

